

会議名称	令和2（2020）年度第2回門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和3（2021）年1月20日（水）午後3時から午後3時40分まで
開催場所	門真市民文化会館ルミエールホール 研修室
出席者	（委員） 清澤委員、朝倉委員、本田委員、雨森委員、中出委員 【出席人数 5 人／全7人中】 （事務局）水野市民文化部長、山市民文化部次長 隈元生涯学習課長、森井課長補佐 柴田主査、空本係員
議題 （内容）	・「門真市文化芸術推進基本計画」（素案）について ・『文化×「協働／共創」フォーラム』及び今後について
傍聴者数	1 人
担当部署	（担当課名）市民文化部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、令和2（2020）年度第2回門真市文化芸術推進審議会を開催いたします。

開会に先立ちまして、まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

一番上に「次第」、次に「配席図」、

次に、資料1「門真市文化芸術推進基本計画（素案）」

資料2「文化芸術推進基本計画 策定スケジュール（案）」

資料3「『文化×「協働／共創」フォーラム』プログラム」

資料4「関西フィルハーモニー管弦楽団との協定締結記念『ホームタウンお披露目コンサート』開催について（ご案内）」

以上でございます。資料に不足はございませんか。

なお、木ノ下委員、わかぎ委員につきましては、都合により本日ご欠席との連絡を受けておりますことをご報告いたします。

それでは、開会にあたりまして、生涯学習課 隈元課長がご挨拶申し上げます。

【事務局】

生涯学習課 課長の隈元でございます。よろしくお願いいたします。

遅ればせながら、新年おめでとうでございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、前回の審議会でもいただいたご意見・ご提案をもとに、素案を修正してまいりました。

本年3月の計画策定に向けまして、いよいよ最終段階とまいりましたが、本日も何卒よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

また、本日は、審議会のあとに文化フォーラムということで、審議会と合わせて約2時間半と長時間となりますが、重ねましてよろしくお願いいたします。

それでは、清澤会長、以後の進行をよろしくお願いいたします。

【清澤会長】

それでは、次第に沿いまして、現在の門真市文化芸術推進基本計画（素案）の策定状況について、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、基本計画（素案）の策定状況について、本計画策定の支援業務をお願いしております、ルミエールホール指定管理者の特定非営利活動法人トイボックスの栗田様にご説明をいただきます。

【事務局】

あらためまして、トイボックスの栗田でございます。よろしくお願いいたします。お手元の冊子に沿ってご説明いたします。

こちらの冊子ですが、最終的な印刷物になる前の前の段階のものです。

いままでいただいたご意見を反映いたしまして、基本的なレイアウト、ページの構成、テキストに関しては入っております。

まず、一つ目の段階として、本日のこちらの審議会で先生方から頂戴するご意見、この後予定されておりますフォーラムでみなさんからいただくご意見、さらに市のホームページや各公共施設で市民の方に回覧いただいて、ご意見をいただくパブリックコメントを現在募集しており、いただいたご意見を反映いたしまして、最終的な原稿を作ります。

それから、表紙も今は簡単に一行タイトルがついているだけですが、こちらの表紙も写真などをつかった形、最後の段階でデザイナーに入ってもらって、細かい見栄えやご意見を頂戴しておりました華やかさというものを表現できる冊子に仕上げて印刷をかける予定でございます。

全体の構成ですが、市民の方が仲間を増やすときに使えるような、パンフレットとしても使えるようなイメージで作っています。一般的な自治体の方で作成する計画書と少し見た目のイメージが違うかもしれません。読みやすく、中を見ながらも説明しやすく分かりやすいものにして、門真での文化推進、文化振興の協働・協創の輪が広がるようなものにしたいと思って作成しております。

前半が緑のページ、後半が青のページに分かれております。前半が本編、後半が資料編という形です。前半の中でも実は二つに分かれておりまして、前からめくっていただいて14ページ目から緑の太枠がついているページがございます。こちらの方がいわゆる、推進基本計画の本体というところになります。

今回のプロジェクトに関しましては、行政、市民の方、それから先生方のいろんな意見のキャッチボール、そのプロセスも重要だと考えているために、前半にはこんな

ことをやって作っていきましてということが説明できるような内容になっております。

それから、枠線のページの本体がありまして、ページで申し上げますと 27 ページですね。これから先どのように計画を進めますかというお話とパイロットプロジェクトの紹介というような形になっております。

説明が前後しますが、14 ページ目より前のページをご覧くださいますと、まだ写真やテキストなどは入っておりませんが、計画づくりに関わった市民の方や各ご担当の方からのメッセージをいただき、どんな思いで関わっていただいたのか、一人ひとりの市民の顔が見える形の冊子に仕上げていきたいと思っております。

すでにパブリックコメントも始まっておりますけれども、この後のフォーラムはもちろん、本審議会でのご意見もパブリックコメントの一環として反映してまいりたいと考えているところでございます。

全体を通じて、まだまだ追加することや分かりづらい点もあるかと思しますので、ご議論、ご意見のほどいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【清澤会長】

ご説明をありがとうございました。

栗田さん、これで具体的なところの内容に関しては終わりですよね。

【事務局】

具体的な各ページの内容に関しましては、今までご議論いただいたものをまとめたものになりますので、前回と大きく異なるところは特にございません。

【清澤会長】

それでは、本日ご配布いただきました、最新版の素案の内容をもう一度ご確認いただいて、ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思っております。

では、中出委員、どうぞ。

【中出委員】

よろしくお願いいたします。こんな素敵な冊子を作っていただいてありがとうございます。会議を進めていく中で、写真もいっぱい入って、見た目的にも見やすく、とてもいいなと思います。

最初の2ページの国のところで、文化芸術はまちづくり全体に影響するから推進してということを受けて、このような流れに世の中がなっているということですよね。

それで、最初に私たちがお話を伺ったときも、文化芸術を活性化することによって住んでみたいまちにするとか、まち全体を活性させるということで、特に今まで個人的にされたり、小さなかたまりでされているところをよりバックアップしたりと推進していこうということで作っていらっしゃると思いますが、5ページの一番下の「なぜこの計画が必要なのか」というところで、「市民が主体となって活動する場をつく

るためです」というところと、「市民の文化芸術がまちづくりと門真市の活性化につながる」というところは、どちらが先でどちらが後かという部分で、さかさまのような気がします。

市民が主体となって活躍の場をつくる、イコール門真市の活性化につながる、ニワトリと卵のような関係ではあると思うのです。

最初に伺ったのは、人口減少の中で住みたくなるまちをつくるためにという概念を強く持ちましたので、文章の書き方でだいぶニュアンスが変わると思うので、活躍する場をつくるためなのか、市全体を活性化して住みたくなるまちに重きを置くのか、みなさま方にお聞きしたく、よろしくお願いいたします。

【清澤会長】

ページの要約みたいな形でこのポイントが出ているわけですね。事務局の方からこれに絞られた趣旨だけもう一度ご説明いただいたらどうでしょうか。

【事務局】

基本的にはこういった、いわゆるイメージとして固い冊子をどういうふうにしたら読みやすくなるのかなといろんな工夫をしているところです。同じく6ページの下に、前回の審議会でカタカナの言葉に関するご意見も頂戴しておりまして、ただ、カタカタのほうを通じやすいもの、日本語訳が難しい言葉もございますので、言い換えている部分とカタカタハテナに分けて解説を加えている部分と、一つのページの中で使い分けをしております。

それと、こうして見てもやはり文章、テキストの方が多いですから、パラパラとめくっていただいたときに、例えば、Q & Aという形でポイントを少し強めにするなど目につく形でポイントをお示ししたいということが狙いではございます。

ただ、いまご指摘ご質問のあったとおり、逆にその目的が叶えられていないというご指摘をいただいておりますので、もう少し表現の工夫は必要かなと思っております。

【清澤会長】

要約するとなかなか難しいだろうと思うのですが、文章全体の中ではご指摘のあったような趣旨は通っているわけですね。絞り込んだときにたまたま市民が主体となるということで。難しいところだとは思いますが、私も最初から議論に出ておりますのでそのあたりよく分かるのですが。どちらかという都市経営的な視点が戦略としてあってこうだというようなことがあるのですが、市民に対するパンフレットとしては、この方が分かりやすいかなと思います。

もちろん都市経営のために必要な要素ではあるのですが、どちらかという市民主体の捉え方でこうまとめられたのかなと思うのですが、ただ、市民が主体としてやるということだけではなくて、もう少し広義の目的があるということを含めてもらうようなことは可能でしょうか。市の活性化を上位にもっていくと言いますか、順番を入れ替えてもいいかと思いますが、このあたりはどうでしょうか。議論された結果だと

はと思いますが。

【事務局】

2 ページの方のイメージ図を少し矛盾のないように分かりやすく、もう少し考えるというのはいかがでしょうか。2 ページと 5 ページが前から読んでいくともう少しというようなご指摘だったのかなと思ひまして、2 ページのこの図の書き方を工夫して分かりやすくしたいと思っております。

もう一つ、Q & A のところがいまこのようになっている大きな経緯としましては、今までの行政の庁内検討委員会や市民 100 人会議などの中で、何故文化芸術は振興しなければいけないのか、推進しなければいけないのか、根本的な議論を繰り返してきて、これが非常に難しく、なかなか結論がでない議論でございました。

それぞれの方によって意見が大きく違ひまして、行政的には、国の方で法律が整備されて、義務ではないけれども推奨されているということで、実務上は計画を作っていないと、現場では計画がないのに予算をとというのはなかなか言いづらいなどそれぞれのお立場からさまざまな意見があったので、そうしたがためにもやややといった印象の文章なのかもしれないです。

【清澤会長】

分かりやすく書かれているわけですが、全般に影響するから推進してねということになっておりますけれども、これを全般にとって大事なもののなのでというようなことです。今のところでも、まちづくり全般に対して大事だということのを頭に詠って、協働・協創は一種の手段ですから、そのようにして少し言葉の順番を変えていくというようなことはいかがでしょうか。素案の素案ですから、もう一回くらい議論する機会もあるかと思いますが、あるいはメールのやりとりでもいいと思ひますけれども、いかがでしょうか。

中出委員、それで案を作ってくださいことはいかがでしょうか。

【中出委員】

そうですね。核というのがしっかりと、この計画が何のためかということが、少しだけぶれているような気がしたので、まちづくりの観点のための文化なのか、市民が活動できるためのなのか、結局は一緒なのですが、もう少しはっきりしていただければと思ひます。よろしくお願いいたします。

【清澤会長】

では、そのような形で進めていただければと思ひます。

【朝倉委員】

私がこれを市民としてもらったときに読んでいくと、本編の 14 ページに行くまでにちょっと疲れると思ひます。これは大事なことですけれども、私だったら、先ほど

少し話が出たように、1 ページ目に、この6 ページの市民である誇り魅力あるまちにするために文化芸術の振興というのを大きく出して、そのあと基本計画があって、基本計画が終わったところに、なぜかというのが来て、こういう過程でそれを実現するためにやってまいりました、ということだと最後まで読み切れるような気がします。

【清澤会長】

全体の構成ですね。たしかに主旨をまず出して、それを図解的に説明するという正統的な形ですね。

【朝倉委員】

スタンダードですね。

【清澤会長】

また、構成を工夫していただければと思います。他、いかがでしょうか。

【本田委員】

本当にすばらしい素案になってきたなという感じでご努力、感謝いたします。

私からは2点ほどありまして、一つは今まさに委員からご指摘あったように、理念のところで、文化と市民生活と都市環境と経済活動、これらの主な市政の分野がどのようにかかわっているのか。私なりに申し上げれば、クリエイティブシティというのは文化のエネルギー、創造力をエネルギーの源泉として、豊かな市民生活とか魅力ある都市環境をつくり、また活発な経済活動が行われる。この3つの政策領域が上手く好循環と言いますか、ぐるぐると回っていくイメージがクリエイティブシティだと思うのですね。

やはり文化活動をやろうと思っても、片方で財源や一定の富の蓄積が必要ですし、活発な経済活動の源泉にはエネルギーある、創造力に富んだ市民の方の活動が源泉になってくる。そのまた元が活発な文化芸術活動だということで、この3つが上手く好循環していく、そんなイメージかと思いますので、そのあたりもう少し分かりやすく図解していただければと思います。

あと、この指針と言いますか、計画の目標がクリエイティブシティ門真をつくっていくのだというふうに書かれています。これは、これまで申し上げてきたことを受け止めていただいてすごく嬉しいですけれども、クリエイティブシティというのはやはりカタカナ語なので少し分かりにくいので、例えば、「創造都市ネットワーク日本」という、全国の都市が入られているネットワーク組織があるのですが、いま160都市くらい入ってしまっていて、そこでの定義が文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市が創造都市ですよという言い方で、創造都市ネットワーク日本のホームページには書かれています。

また、遡るとそれはユネスコがやられている全世界的なクリエイティブシティネットワークに繋がっているという、何かそういう世界的な動き、日本の動きもあるんだ

よというような注釈を一つ入れていただければ、なるほど「創造都市（クリエイティブシティ）」が21世紀にふさわしい都市政策の理念として動いているのだなということが伝わるのかなと思います。それが一つです。

それからもう一つは、これは言葉だけの問題なので趣旨は違うと思いますけれども、7ページのところで、この基本計画をなぜ作るのかということで、タイトルが「みんなが同じ未来を目指し歩むために」ということで、これはちょっと一読したときに、12万市民が同じ未来をみんな持つというのはちょっとまあという感じがしました。

たぶんここで言っているのは、「輝く未来の門真を目指してみんなが歩むために」と言いますか、そんなことをおっしゃりたいのだらうなと思いましたので、12万人が同じ未来を持つというのはちょっとというところがありますので、そこだけご工夫いただけたらと思います。

【清澤会長】

事務局どうでしょうか。工夫していただけるでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。いま頂戴したお話しでちょっと書き直しをしていきたいと思っています。

クリエイティブシティというところをどのように出していくかに関しては、結構悩みまして、3ページに計画の概要1、2、3とあるのですが、2番のところで文化もしくは文化の振興、もしくは文化の施策の推進というのは、ほかの福祉であったり、建設であったり、そういったものに対して施策横断的な横軸のもので、それが各施策の効果を上げていく、活性化につながり、だから文化にも財源が必要なのだと、なぜ文化が必要かというご意見もあちこちの自治体様で聞きますので、そういったところを意識したものを書きたいなと思っておりました。もう少し分かりやすく書きたいと思っています。

逆に教えていただきたいと思っていることがございまして、クリエイティブシティと創造都市というのは少し概念が違うのかなと私思っていたのですが、クリエイティブシティの日本語として創造都市を使っても良い範囲でしょうか。

【本田委員】

もともとはユネスコと言いますか、もう少し遡ると、1985年に欧州文化首都という事業が始まったのですね。

これは日本とかアジアの追い上げで、ヨーロッパの諸都市の経済活動が疲弊してきて、それをもう少し活性化していく、まちを活性化しなければいけないということで、やはりヨーロッパの大切な財産というのは文化じゃないかということで、その文化を活かした取組を進めていこうということでヨーロッパが中心に始まりました。

その動きが世界中に広がって、ユネスコがクリエイティブネットワークというのを全世界から募集してやり始めたわけですね。その運動をわが国で取り入れて進めると

きに文化庁などが訳語として創造都市という言葉が使われたので、私自身はクリエイティブシティの日本語訳が創造都市なのかなと思っております。

その創造都市とはどういうことなのかというと、先ほど申し上げました横浜とか全国 160 が入っておられるネットワーク日本の中では、文化芸術と産業経済の創造性に富んだ都市という定義をされておりますので、それが各都市と文化庁が共有して持っておられるイメージかと思っておりますので、それも一つ踏まえていただいてご検討いただけたらと思います。

【事務局】

ありがとうございます。勉強になりました。

【清澤会長】

どうもありがとうございます。ほかにはどうですか。

雨森委員いかがでしょうか。

【雨森委員】

私は絵の関係から、やはりカラー刷りが、例えば、8 ページの課題 1 とか課題 2 が色分けされていると思うのですが、それがすごく目につきますし、最初に必要性とか概要とか市民の方にも渡るといように書かれているのですが、最初から順番に読んでいくのも良いですが、ぱっと目についたところから読んで、またもとに戻って読み進めるといった形になっているのがすごく良いなと思っていまして、カラー刷りのところをもっと作っていただきたいなと思います。

やはりいい計画ができて、読んでいただかないと意味がないですし、例えば、カラーのところのこれが面白いなと思ったり、前に戻ったり、進んだりということで読み進められるのが理想かなと思います。

最初から順番に読み進めるというのは、膨大な資料になってきますとやはりしんどくなってくるので、市民一人の目を見ていただくということから言えば、やはり目を引くようなデザインと言いますか、構成にすれば良いかなと思っています。

それから、最後の方にいくにつれて、具体的な例でこういうことをやっていったらどうかとか、こういうこともやり始めていますよということが書かれていましたので、私自身がこれを読んでいて、自分でも何かできるのではないかという気にさせられたと言うか、すごくいい冊子になっているなと感じておりますけれども、ただもう少しカラー刷りの部分が欲しいと思いました。

【清澤会長】

ありがとうございます。これは最終形に近いのですか。

【事務局】

デザインと配色に関しましても、ご意見をいただいたうえで、最終的にデザイナー

と相談しながら進めまして、私たちのNPOの方で視覚の刺激に対する敏感なお子さんに対応しているスタッフもおりますので、そういったスタッフの意見も聞きながら、最終的なカラーリングとポイントがしっかりと分かる形で整理したいと思います。

【清澤会長】

分かりました。ありがとうございます。

【中出委員】

少し気になったなと思ったのが3ページですね。3ページのところで、まちの活性化には文化芸術が必要だと書くと、活性化するために無理やり何かしてくださいというような気がするので、これも文化芸術によりまちが活性化しますというようにするとか、もしかすると男性が見る目と女性が見る目で少し変わるのかもしれないですけど、そのために無理やりするのは心から湧いてくるものではないのではないかと言葉遣いで押しつけられている気がしました。自分が音楽などをやっていますので、そういうふうに感じました。

【清澤会長】

ありがとうございます。そのあたりも含めて一つご検討いただければと思います。

全体的にはかなり整理されて、立派な形にまとまってきているのではないかと思います。前段の計画本編に入るまでのところですね。それから、計画の本編のところですが、答申するのはこの文章でいくのですか。これがそのまま諮問案になるのでしょうか。

【事務局】

この計画名ですか。

【清澤会長】

はい。

【事務局】

はい。そのつもりでおります。

【清澤会長】

非常に感覚的な表現になっているので、分かりやすいにこしたことはありませんが、少し報告書的なところで言うと、少し要約が過ぎているのではないかという気もします。そのあたりは、事務局で一度ご編集いただければと思います。

それと、この推進の柱として書いてある部分が大事だと思うのですが、この柱の部分と前段のイントロのところにそのよく似た部分があれば、前半だけで終わっても大丈夫かと思います。本編に入るまでのところで、この4つの柱と言いますか基本的な

指針というものが整理されていると非常に分かりやすいのではないかなということ
を印象として持っていました。

柱の市民の文化活動の活性化ということで、これを砕いたところで見えてまいります
と、市民団体の文化活動の活性化ということが主旨、それから、学校教育これは当然
だと思いますが、これが書かれているわけですが、もう一つ、地域の文化活動支援あ
るいは市民団体の文化活動の支援という身近な文化活動に加えて、身近でない文化活
動ですね。例えば鑑賞だとか、あるいは専門家を招いて講演会や発表会とか、なにか
そういうものも活動の活性化の一つとしてこの中で詠っておいたほうがいいのでは
ないかと思いました。これはパイロットプロジェクトも一緒ですが、パイロットプロ
ジェクトでも身近なものだけをこの5年間の内でちょっとずつやっていくというこ
とだけじゃなくて、何かその中で一つ、関西フィルとの提携なんかは一つの大きな要
素だったと思いますが、そういうものを軸とした、いわゆる本格的な文化活動の鑑賞、
あるいは鑑賞者として関われるような文化活動というようなものが詠われても良い
のではないかとということが一つあります。

それから、資本の増大ということが、柱の2のところにもあります。

主には、文化的資本の増大というところに中心がある。手前が文化活動、両方あり
ますので、何かちょっと資本のデータと言いますか、資本の増大というところを中心
にして、柱2を詠った方が分かりやすいのではないかと思います。

そうしますと、一つは、市民パワーですよ。それから、その資金、お金の問題で
すよね。それから、いわゆる外部からと言いますか、専門的なアーティストの活動の
促進とその場所の設定ですね。

何かそういうもので整理して、門真を代表するコンテンツの創出ということも大事
ですが、これは結果として出てくるものではないかという気がしますので、市民に対
してということでは割と大事な言葉かと思うのですが、あえて言うともうあまり必要ない
のではないかと印象として思いました。

それから、3番目の柱ということですが、これはいわゆる情報発信というこ
とで使われていると思うのですけれども、本来はどうなのでしょう。市そのものの
地位向上と言いますか、あるいは反映だとかあるいはイメージアップとかいうふうな
ことで、もう少し上位の目的になるのかなという気がします。シティプロモーション
の解釈として、いわゆる市の宣伝といった意味合いで書かれていたかと思うのですけ
れども、そういう意味であればここでいいのではないかと思います。本来、シティプ
ロモーションはもっと上位の目的ではないかなという気がしますので、ちょっとその
あたりチェックしていただけたらどうかなと思いました。

その中で、市の発信力の増加、個人としては市民としての文化活動の発信力の強化
ですね。それと全体的なプラットフォームということで、この3本柱は良いと思いま
す。

それから、協働と協創これが活動の内容だろうと思いますが、プラットフォームの
形成とそれからデータの共有ですね。それから、市役所の内部、企業とで大体そろ
うのではないかと印象を受けました。

したがいまして、鑑賞するという立場での文化活動が頭では詠われておりますけれども、具体的な中身では少ないような印象を受けますので、そのあたりを一度ご議論いただいたらどうかということと、最後のまとめとしては大体うまくいっているのではないかなと思います。

以上のところ、私としての意見として出させていただきます。

【事務局】

いまご指摘いただいた中で2点だけ、感想というお話ですが、例えば、柱1の3番目に身近な文化活動の促進という項目がございまして、ここのタイトルに鑑賞という意味合いを入れるという案はいかがでしょうか。

【清澤会長】

鑑賞という言葉が良いかどうかは分かりませんが、いわゆる市民による市民のためのとは別のものですね。今回の関西フィルなんかはそういうものに当たるのではないかなと思うのですけれども。

【事務局】

この「身近な」という意味合いが少し生涯学習的な意味合いに寄ってしまっているということですね。

【清澤会長】

そうですね。あるいは市民が自ら楽しむような文化活動ですね。もちろんこれも大切ですが、それとはちょっと違う、誰でもいけて、安価で楽しいというのではなく、それなりにこだわりのある層に向けての文化活動も大事かなというふうに思うのですね。そういった意味で身近でないということです。

【事務局】

もう一点ですが、原稿を書いているときは、いわゆる手法・ツールとしての意味合いを強く書いてしまっていて、ご指摘いただいた全体のプロモーションであったり市のブランド力の向上、シビックプライドであったり、そういったものに関しては、この柱1から4を達成していくと、そういったまち全体の価値が上がるよという理解で合っていますか。

【清澤会長】

本来の意味での市の地位向上と言いますか、これがプロモーションじゃないかという気がするのですね。もし、市の広報発信の強化ということであれば、言葉が重なるような感じがしますね。シティプロモーションの向上、その中で市の情報発信の強化のダブルというような感じになりますから、そのあたりどうなのかなというふうに思いました。

【事務局】

ありがとうございます。

【中出委員】

いま清澤会長がおっしゃったことと同じですが、言葉としてはそこに表せなくてもいいと思うのですけれども、その言葉はふさわしいかどうか別として、文化芸術でもいわゆる大衆芸能というように、まさに身近で自分たちにも手が届く、すぐに参加できる、やってみることができるというものと、優劣ではないのですけれども、急にやってみてできないものと言いますか、長年才能ある方がずっと追及されて出来上がったもの、音楽であればクラシック音楽のように名前が残っているものとか、そういうものと区別と言いますか、両方が大事だとおっしゃっていると思いますので、少し門真には後者のものが十分でないと思っていますので、そちらの方の推進は難しいと思いますが、ぜひ市民の方に紹介していただくことで引き上げていただいて、これからの子どもさんにも可能性を与えてほしいと思います。

私が感じていたのは、門真まつりなどで流行りの音楽もいいかもしれませんが、反面少しお高く感じられるような音楽も、うまく導きによってやっていただければと私の立場から感じました。

【清澤会長】

またそのあたりも検討いただけたらと思いますが。

このあと、フォーラムもございますので、そこでまたご意見を出していただければと思います。

それでは、最後の案件である文化フォーラムと今後のスケジュールを事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、『文化×「協働／共創」フォーラム』及び今後のスケジュールについて、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。

本日の審議会のあと、午後4時から小ホールで、文化フォーラムがございます。

資料3をご覧ください。本年度はコロナ禍の影響で、100人会議が開催できず、今回の開催に至りました。

フォーラムの流れとしましては、本計画素案の概要とパイロットプロジェクトの報告・説明のあと、審議会委員、市職員による庁内検討委員会、100人会議とパイロットプロジェクト参加市民、それぞれ2人ずつのご代表と市長が参加してのパネルディスカッションです。

審議会からは、コーディネーターとして清澤会長、パネリストとして、朝倉・本田両委員をお願いいたしております。ほかの委員の皆さまは、こちらでご案内するお席にてご覧いただきます。

前回の審議会でも申し上げましたが、1月15日（金）から2月5日（金）まで、市HPや市内施設等で市民皆さんからパブリックコメントを求めており、このフォーラムでも来場いただいた方々からご意見をいただく場を求めるなど、最後まで多くの方々の意見や提案を反映できる計画づくりのスタンスで臨みたいと考えております。

最後に、資料2をご覧ください。

フォーラム及びパブリックコメント終了後、審議会委員の皆さまには、メールでのやり取りになりますが、本日のご意見やフォーラムでのご意見等を活かしながら修正等行いながらご審議いただいたのち、2月26日（金）に開催される予定である教育委員会の定例会にて意見聴取いたします。

その後、最後の審議会で再度確認いただき、市長からの諮問にもとづく、本計画づくりに関する審議をへての答申という流れで進めさせていただきます。

年度末で何かとお忙しい中を恐縮には存じますが、市議会の日程との関係で、3月12日（金）に設定させていただきましたので、ご予定をよろしく願いいたします。

以上、簡単ですが、フォーラムと今後のスケジュールについての説明を終わります。

【清澤会長】

それでは、次回の予定も出ておりますし、本日委員からお出しいただきました意見を事務局で精査いただいて、新たな素案にさせていただいたものをメールでやり取りしながら進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

令和2年度第2回門真市文化芸術推進審議会を閉会いたします。皆さま、ありがとうございました。